

琉球大学学術リポジトリ

マーシャル研修派遣

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学アジア太平洋島嶼研究センター 公開日: 2012-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/22849

4. マーシャル研修派遣

琉球大学 アジア太平洋島嶼研究センター主催

沖縄・太平洋教育ネットワークイニシアチブ(学生交流)事業

笹川太平洋島嶼国基金(SPINF)委託事業

視察報告書

梅村 哲夫

平地 渚

茂野 武史

泉 萌

伊東 貴利子

青木 悠

2007年9月9日

CAPIS 主催マーシャル諸島共和(RMI)国引率報告書

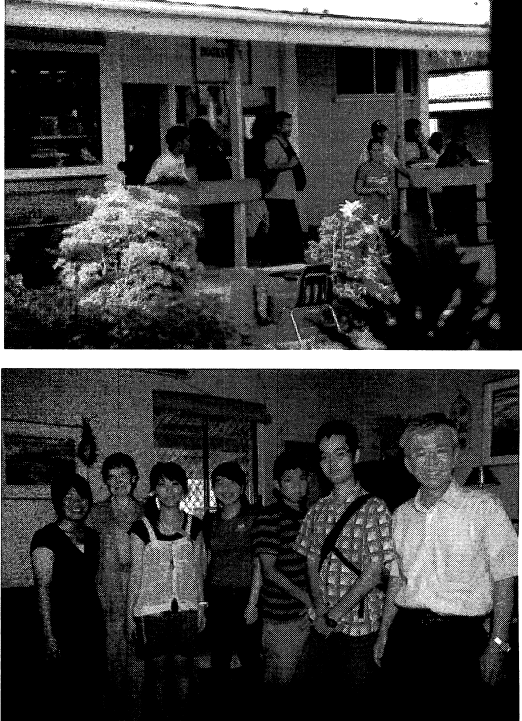
国立大学法人 琉球大学
アジア太平洋島嶼研究センター


1. 日程： 2006年8月20日(月)から29日(水)まで、9泊10日
※ただし、マーシャル諸島視察は、23日(木)～27日(月)の5日間。
また、奄美大島から参加した茂野君、泉さんは30日帰宅なので10泊11日。
※8月20日(月) 那覇→福岡(移動)、福岡泊
21日(火) 福岡→グアム(移動)、グアム泊
22日(水) グアム→マジュロ(RMI)(移動)
8月28日(火) マジュロ→グアム(移動)
29日(水) グアム→福岡→那覇(移動)
詳細は旅行日記参照のこと
2. 研修場所： マーシャル諸島共和国 (Republic of The Marshall Islands, RMI)
3. 参加者： 教員(引率)2名、学生5名、計7名

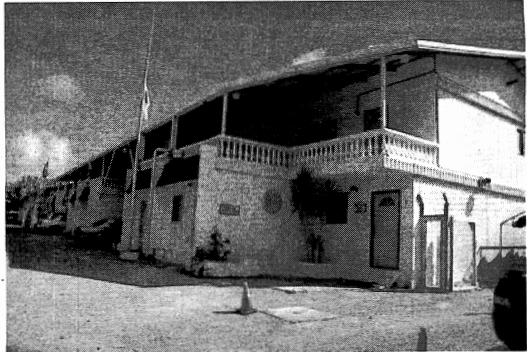
教員 大城肇(法文学部教授)、梅村哲夫(法文学部准教授)
学生(高校生) 平地 渚(八重山高校3年生)
茂野 武史(大島高校3年生)
泉 萌(大島高校3年生)
学生(大学生) 伊東 貴利子(活水女子大学)
青木 悠(琉球大学法文学部、4年次)

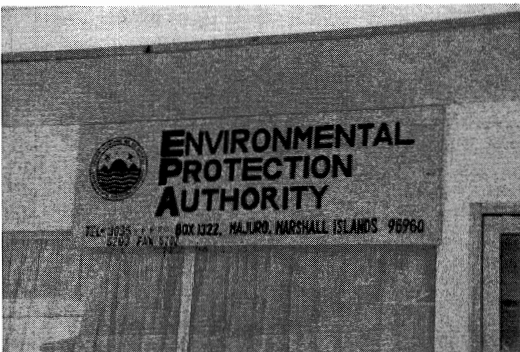

4. 訪問先及び内容

(1)第1日目



訪問日時：2007年8月23日（木）	9時00分～9時45分
訪問場所：マーシャル諸島短期大学	Collage of the Marshall Islands
面会者：Mr. Kenson Alik、副校長	
<p>マーシャル諸島短期大学学長への表敬訪問の予定であったが、学長の都合により延期された。当研修担当職員（学生サービス担当職員）であるケン氏によって学内施設の案内をお願いした。また、副学長と会談し、大学の方針に関する説明を受けた。</p> <p>なお、大学の方針は学生に最低限の知識やスキルを修得させ、米国など海外でも働くことが出来る能力を身につけさせることに重点を置いているようであった。</p>	


訪問日時：2007年8月23日（木）	10時20分～11時30分
訪問場所：アレレ国立博物館	ALELE National Museum
面会者：特になし	
<p>RMI 唯一の国立博物館であり、入館料は無料。本施設には、書庫、図書館、博物館が1つの建物に入っている。博物館は、一部屋のみが割り当てられており、戦前、戦後の写真、特にロンゲラップ島の被爆者の写真が目を引いた。</p> <p>図書館は比較的小規模で、最近の書籍及び戦時中の資料等が保管されていた。</p>	

訪問日時：2006年8月23日（木）	14時00分～15時30分
訪問場所：在マーシャル日本大使館	Embassy of Japan
面会者：大平和之大使 塩澤英之専門調査員	
<p>ここでは、マーシャルに対する日本のODA政策、他ドナーの状況、マーシャルにおける生活や開発問題、特に自然環境問題、観光開発について聞き取り調査を行った。</p> <p>なお、塩澤専門調査員は、元 JOCV で高校教師、大使は立命館大学で教鞭をとった経験もあり、EU の専門家であった。</p>	


訪問日時：2007年8月23日（木）	15時45分～15時30分
訪問場所：マーシャル環境保護局	Environmental Protection Authority
面会者：松宮愛（JOCV 環境教育）	
<p>環境保護局には、青年海外協力隊(JOCV)環境教育隊員の松宮氏により、環礁の構造などについてプレゼンテーションを受けた。</p> <p>加えて、RMI における環境問題、特に生活及び産業廃棄物の処理問題について、説明を受けた。それによると、当該国では、現地住民の環境に関する意識が低く、町のあちこちにゴミが散乱していること、行政の対応が遅れていることが指摘された。</p> <p>なお、松宮氏は赴任して間もないので、RMI の現状に関する詳細な説明は聞けなかった。</p>	 

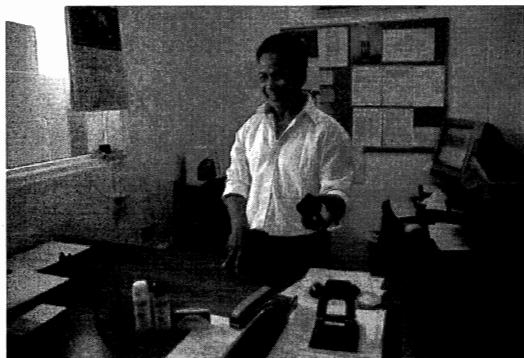
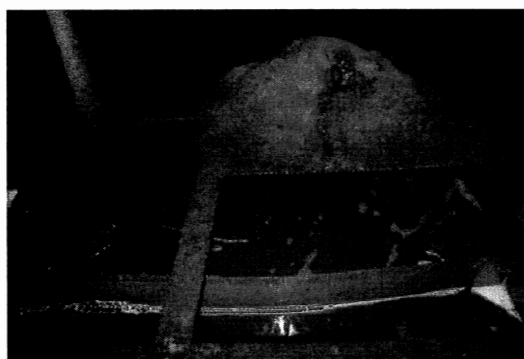
(2)第二日目



訪問日時：2007年8月24日（金）	9時00分～10時00分
訪問場所：JICA 事務所	JOCV/JICA Marshall Island Office
面会者：千賀和雄（マーシャル駐在員事務所長）、Oguma Makoto（JOCV 調整員） 案西千佳（JOCV 調整員）	
<p>まず、JOCV のプロモーションビデオを見た後、JICA の活動について説明を受けた。</p> <p>現在 RMI には JOCV26 名（内 SV4 名）が活動しており、JOCV 事業が JICA の事業の 100%を占めていること、そのほとんどが小中高大学校における教員であり、その他として保健医療、マジュロ病院（助産師等）、環境教育として働いていることなどについて説明を受けた。</p> <p>また、やはりゴミ問題については深刻に捉えていること、インフラ整備や産業振興についても考えており、来年3月には観光に関する専門家が着任予定であることなどについても教えてもらった。</p>	 

訪問日時：2007年8月24日（金）	10時15分～11時00分
訪問場所：ELEFA ハンディクラフト	ELEFA Handicraft Shop
面会者：Ms. Lucia Guavis	+692-625-0272
<p>ハンディクラフトは、RMIの特産物でかつ伝統工芸品である。店舗自体は非常に小さいが、中には多種多様なハンディクラフト製品が展示、販売されていただけでなく、実際に生産も行われていた。価格は、例えば写真背景の円形状のものが約30ドル前後である。その他にも、ネクタイ状のもの、ブレスレット、ペンダント、小型のバックなどがあり、どれも緻密な作りとなっていた。</p>	

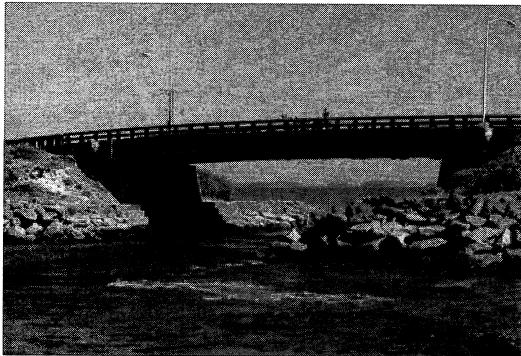
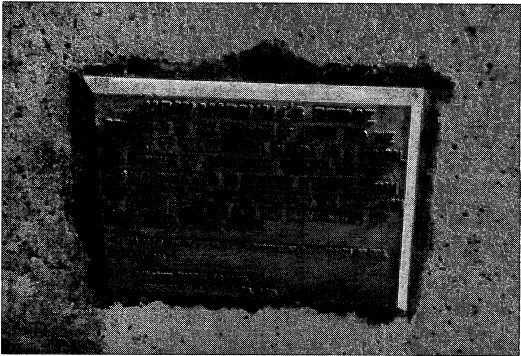
訪問日時：2007年8月24日（金）	13時45分～15時20分
訪問場所：マーシャル諸島観光局	Marshall Island Visitors Authority
面会者：Ms. Dolores deBrum-Kattil（局長）	+629-625-6482
<p>観光局では、RMIにおける外国人観光客の動向、観光資源等について聞き取り調査を行った。また、多数の旅行者向けパンフレットが準備されていたので、それらと共に、RMIの観光プロモーションDVD及び写真集を収集した。局長の見解は、とにかくRMIにおける観光はまだ未成熟であること、従って宿泊施設が限られていることと、グアムやハワイが経由地となるため、RMIまで足を伸ばす観光客は多くないことが指摘された。</p> <p>さらに現在、RMI内の環礁間を繋ぐ唯一の交通手段であるエアー・マーシャルが機体故障等により運休しており、マジュロ環礁以外の環礁に取り残されている観光客（主にダイビング）が発生していることが説明された。</p>	 



訪問日時：2006年8月10日（木）	14時40分～14時50分
訪問場所：魚市場	Fisheries Markets
面会者：特になし	
<p>ここには夕方に訪問したため、魚介類自体を見ることは出来なかった。なお、製氷器があり多くの漁民が氷を買いに訪れていた。</p> <p>また写真にはないが、中国籍又は台湾籍の漁船が多数係留されていた。</p>	

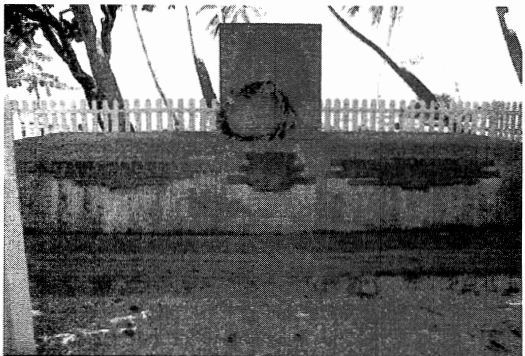

訪問日時：2007年8月24日（金）	15時00分～16時00分
訪問場所：コプラ製品製造工場	Tobolar Copra Processing Plant
面会者：社長及び技術者（氏名不詳）	
<p>フィリピン人が責任者であるコプラ製品製造会社である。まず社長から製品の説明を受けた。</p> <p>主な製品は、ココナッツオイルを原料とした石鹸、化粧水であるが、その他にこのオイルをディーゼル自動車及びトラックの燃料として活用していた。なお、燃料には50%濃度のものと100%ココナッツオイルのものがあるが、エンジンそのものは改造する必要はない、という説明を受けた。</p> <p>次に技術者によりココナッツからオイルを搾取し、精製する工程の説明を受けた後、実際に工場内を、説明を受けながら見学した。</p>	 


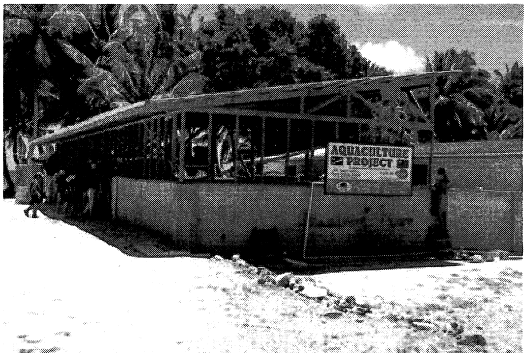
訪問日時：2006年8月24日（金）	16時00分～16時15分
訪問場所：ゴミ集積場兼埋め立て地	
面会者：特になし	
<p>マジュロ環礁の市内中心部から空港へ向かう途中にあるゴミ処理場である。本環礁で排出されるゴミはここへ収集され、コンクリートの防波堤の中に捨てられ砂をかけて埋め立てされる。なお、自動車などの機械類、タイヤ、ペットボトルは作業員によって分別され別途処理をする予定である。</p> <p>RMI が環礁であるという性格上、活用できる土地は少なく、埋め立てにより土地の拡張を兼ねたものとなっている。なお、作業員によるとさらに沖に 50 フィート、海岸北方へ 2,000～3,000 フィート拡張する予定である、とのことであった。</p> <p>ただし、町の中に作られたゴミ集積場はどれも満杯の状態であり、この集積場に運搬するシステムが機能しているとは言い難い状況である。</p>	 


(3)第3日目

訪問日時：2007年8月25日（土）	9時00分～9時15分
訪問場所：日本マーシャル橋	JAPAN-MARSHALL'S BRIDGE
面会者：特になし	
<p>マジロ環礁唯一の橋であり、日本の援助によって1983年に建設されたものである。</p> <p>この橋のお陰で、環礁外の島嶼住民や漁民が大回りをせずに、マジロ市内の港に来ることが出来るようになった。なお、橋自体は20年以上前に建設されたものであり、老朽化しているとも言える。</p> <p>この橋の左手側数キロ先に空港があり、右手側数キロ先が町の中心となっている。</p>	 



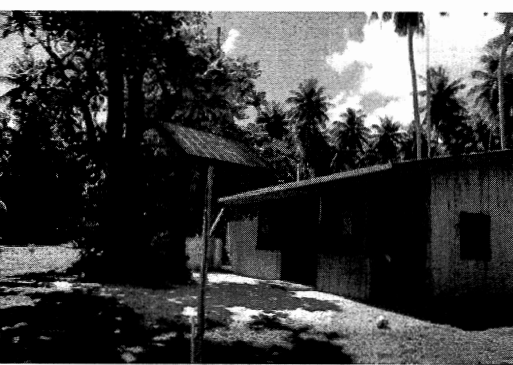

訪問日時：2007年8月25日（土）	9時30分～10時00分
訪問場所：RRE シャコ貝養殖場	RRE Clam Farm
面会者：特になし	
<p>RRE (Robert Reimers Enterprises) という企業が経営するシャコ貝の養殖場である。残念ながら経営者に面会することはできなかったが、大小様々な色のシャコ貝が養殖されていた。</p> <p>観光局の観光プロモーションDVDによると、これらシャコ貝は食用ではなく、観賞用であるとのことであった。</p>	 

訪問日時：2007年8月25日（土）	10時40分～11時40分
訪問場所：マジュロ平和公園	WW II Memorial Park
面会者：特になし	
<p>昭和59年3月16日に日本政府によって建立されたもので、次のように書かれている。「東太平洋戦没者の碑 さきの大戦において東太平洋の諸島及び海域で戦没した人々をしのび平和への思いをこめてこの碑を建立する 協力マーシャル諸島共和国」。</p> <p>ここは空港よりも南に位置しており、空港で昼食を購入し立ち寄った。現地の人々にとってはピクニックサイトということであった。なお、これよりも南には道沿いに小売店があるだけで、村々が南端まで続いている。</p>	 

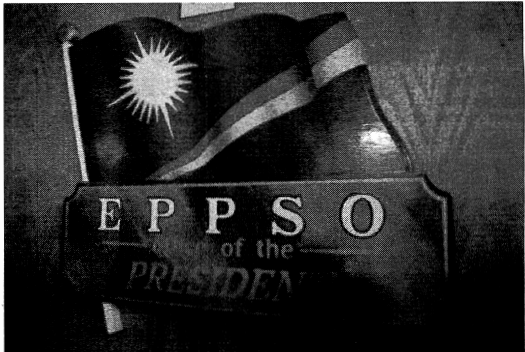

訪問日時：2007年8月25日（土）	11時15分～11時45分
訪問場所：CMI 実験場	
面会者：特になし	
<p>マーシャル諸島短期大学の養殖などの実験施設である。</p> <p>台湾の支援を受けた設備もあった。また、アコヤガイの養殖実験も行っているようであるが、十分に機能しているようには見えなかった。</p> <p>学生は、CMIの学生と共に椰子の実の取り方、皮の剥き方などを教わっていた。</p>	 

訪問日時：2006年8月25日（金）	12時00～16時00まで
訪問場所：マジュロ環礁南端視察	
面会者：特になし	
<p>この南端一帯は私有地で、ピクニックサイトとして有名であり、週末には多くの家族連れが訪れるという話である。入場料は1人1ドルで、入場時に徴収される。施設は、掘っ立て小屋のトイレ1つ、島内唯一の井戸水を引いたシャワー1つであり、更衣室はない。</p> <p>環礁の端なので、海は180度以上見渡せ、白浜が続き、遠浅となっている。また、海のはるか彼方に別の島が見えた。</p> <p>ここでも温暖化の影響か、海岸線が多少浸食されており、椰子の木が傾いていたが、それほど深刻には見えなかった。</p>	

(4)第4日目

訪問日時：2007年8月26日(日)	10時～17時
訪問場所：Eneko 島視察、学生交流	
面会者：特になし	
<p>本日は日曜日のため、環礁を形成する1つの島であるエネコ島へCMIの学生とともに交流を兼ねたピクニックに行くこととなった。</p> <p>位置は、RREから小舟で30分程度の場所にある。ビーチの沖合まで船で行き、そこから海岸までロープで繋がった筏に乗り換え、人力でロープを引きながら陸地へ向かった。</p> <p>雨水を使った簡易トイレ(男女別、洗面台あり)、シャワーが完備されていた。その他に大きな日よけの建物があり、テーブルと椅子が地面上に直接置かれていた。</p> <p>ここの管理人は、すぐそばの家に住んでおり、ソーラーパネルが設置されていたことが印象的であった。ただし、家の裏庭にはゴミが散乱していたので、適切な処理が行われているとは言い難い状況であった。</p> <p>海の状況については、珊瑚は死んでいるものが多く見られたが、魚影はあり、貝の採取も可能で、実際に持ち帰って夕食の材料とした。</p> <p>最下部の写真は内海であり、まるで湖のように波は穏やかであったが、島の反対側は外海に面しており、波も荒かった。</p> <p>学生たちは、シュノーケリング、ビーチバレーなどをして交流していた。特に当日は、日本人学生の1人の誕生日であったので、マーシャル人学生による歌のプレゼントが行われた。なお、JOCVでCMI所属の日本語教師、橋本さんも同行した。</p> <p>午後4:00頃に迎えの船が来て、帰る方向に虹が見え、雨の中を進むことになった。幸い陸上は雨が降っていなかった。</p>	   

(5)第5日目

訪問日時：2007年8月27日（月）	8時30分～9時30分
訪問場所：マーシャル経済政策統計局	Economic Policy Planning & Statistics Office
面会者：Mr. Carl S. Hacker（局長）	
<p>この局のスタッフは7名であり、経済統計、予算作成などを行っている。局長は元米軍人で潜水艦乗務員ということであった。</p> <p>RMIの主要産業は、漁製品加工（上海資本）、ココナッツ製品であり、観光産業は小さい。RMIに必要な物資の2/3がグアムから輸入され、教会と学校関係の資材には輸入税が免税される。</p> <p>規模の大きな企業は台湾資本であり、中小企業は中国資本である。最低賃金は、\$2/時間。</p> <p>当局は、長期的なマスタープラン作成よりも、短期的な予算案作成に重点を置いている。その理由は、外部から獲得する資金の目処が立たないからである。</p>	 

訪問日時：2007年8月27日（月）	9時40分～11時00分
訪問場所：国会議事堂視察	
担当者：Mr. Phil Philippo (Clerk of Cabinet) …政府閣議担当 Mr. Joe E. Riklon (Clerk of NITIJELA) …伝統的リーダーの会議担当	
<p>国会議事堂、閣議室、及び伝統的リーダーの会議室を見学した。RMIでは、政策決定は内閣と伝統的リーダーによる決定という2重構造によってなされているようである。</p>	